

統合分野 10科目 12単位 360時間

包括的看護の視点で、急速に変化する保健医療福祉システムや社会のニーズに対応できる能力が養えるよう、あらゆる場での看護活動、組織における看護師の役割を理解し、臨地実践に即した看護を学ぶ。

《在宅看護論》 Home Nursing

地域で生活するあらゆる健康レベルとライフステージにある個人・集団の健康問題を総合的に理解し、在宅における看護活動を実践できる基礎的知識・技術・態度を習得する。

科目名	在宅看護概論 Introduction		講師名・実務経験	森 珠美・専任教員
講義時期	2年前期	講義回数	8回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	2年次6月			
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする			
参考書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論(医学書院)			
講義のねらい	対象となる人々の必要性に応じて、広い視野で看護を提供するために在宅看護活動の対象および場を理解し、継続看護の重要性と在宅での看護者の役割について学ぶ。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会背景から在宅看護を必要とされる要因が理解できる。 2. 在宅看護の利点と限界をふまえたうえで、在宅看護の目的が理解できる。 3. 対象を理解し、在宅看護のあり方を考えることができる。 4. 他職種との協働のあり方を知り、看護師の役割について考えることができる。 5. 市町村の介護保険サービス内容を調べ、今後のありかたを考えることができる。 			
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護とは、在宅看護の位置づけ 2. 在宅看護の歴史的変遷 3. 在宅看護活動 <ol style="list-style-type: none"> ①在宅看護の特性 ②在宅看護の担い手と活動内容 ③他職種との連携と看護師の役割 ④訪問看護活動 4. 在宅看護の対象者 <ol style="list-style-type: none"> ①療養者:高齢者、難病患者、障害者、子ども ②家族 ③地域 5. 在宅療養を支援する社会資源 <ol style="list-style-type: none"> ①障害者福祉制度 ②高齢者福祉制度 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険 ・介護休業法 <p>*在宅療養継続のための具体的なサービス内容、利用状況について、</p> 			
講義内容	1回目	在宅看護の概要		
	2回目	在宅看護の対象の特徴と倫理		
	3回目	在宅看護の対象:家族		
	4回目	訪問看護活動		
	5回目	地域で療養する人と社会資源①		
	6回目	地域で療養する人と社会資源②		
	7回目	グループワーク発表会(介護保険制度について)		
	8回目	試験		

統合分野 看護の統合と実践

科目名	統合看護Ⅲ 災害看護・国際協力 Integrated NursingⅢ		講師	永原富美子・専任教員	
講義時期	3年後期	講義回数	8回	単位・時間数	1単位(15)
		講義方法	講義・演習		
試験予定	3年次11月				
評価方法	授業参加状況、レポート等(20%)、筆記試験(80%)。60点以上を合格とする				
参考書	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③災害看護				
講義のねらい	災害における健康問題、災害医療、看護に関する基礎知識を学ぶ。 医療・看護の国際協力の仕組みと国際医療、看護活動を学ぶ。				
学習目標	<p>1・災害看護</p> <p>1) 災害体制と災害救助活動の概要を理解できる。</p> <p>2) 災害各期の看護活動を理解できる。</p> <p>2. 国際協力</p> <p>1) 世界の保健医療福祉の現状を理解でき、問題点を考えることができる。</p>				
講義概要	<p>1. 災害看護</p> <p>1) 災害の定義・災害看護の定義と役割</p> <p>2) 災害サイクルと災害サイクル別看護活動</p> <p>3) 災害の種類、災害時期別健康問題</p> <p>4) 日本の災害医療</p> <p>5) 災害看護の役割と実際</p> <p>2. 国際協力</p> <p>1) 諸外国の保健医療福祉の今日的課題</p> <p>2) 国際保健医療機関の組織と機能</p> <p>3) 日本の国際協力の実際</p>				
講義内容	1回目	災害の定義・災害看護の定義と役割			
	2回目	災害サイクルと災害サイクル別看護活動			
	3回目	災害の種類、災害時期別健康問題			
	4回目	災害看護の役割と実際			
	5回目	日本の災害医療			
	6回目	グループワーク			
	7回目	国際協力			
	8回目	試験			

統合分野

科目名	在宅援助論 I (総論) Home Nursing I		講師名・実務経験	青木 和美・看護師	
講義時期	2年後期	講義回数	7回	単位・時間数	1単位(15)
		講義方法	講義		
試験予定	2年次2月				
評価方法	筆記試験100%、60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論(医学書院)				
講義のねらい	在宅での療養者や家族の生活を総合的に捉えるための在宅看護の展開の視点、特徴を学ぶ。				
学習目標	<p>1. 療養者と家族のもつ看護上の課題を見出し、訪問看護師として支援すべき事柄、看護介入の具体的な方法、評価のプロセスを理解できる。</p> <p>2. 現在の社会情勢における在宅看護の位置づけと問題点が理解できる。</p>				
講義概要	<p>1. 在宅看護における看護過程の特徴</p> <p>2. 在宅看護におけるアセスメントの視点</p> <p>3. 看護の継続性、退院指導のあり方</p> <p>4. 訪問看護の目標設定</p> <p>5. 在宅での看護過程の実践</p> <p>6. 介護保険法の事例への適応</p> <p>7. 現在の在宅看護の問題</p>				
講義内容	1回目	在宅看護の目的と特徴			
	2回目	在宅療養支援			
	3回目	訪問看護のしくみ			
	4回目	事例検討			
	5回目	事例検討			
	6回目	事例検討			
	7回目	事例検討			
	8回目	試験			

統合分野

科目名	在宅援助論Ⅱ 技術 Home Nursing Ⅱ		講師名・実務経験	①森 珠美・専任教員 ②濱中 康治・理学療法士 ③瀧田 真衣・作業療法士 ④牛越 史織・言語聴覚士	
講義時期	2年後期	講義回数	15回	単位・時間数	1単位(30)の内の①(20)、②(6) 1単位(30)の内の③④各(2)
		講義方法	講義・演習		
試験予定	2年次2月				
評価方法	筆記試験100%、60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論(医学書院)				
講義のねらい	療養者の生活の場での望ましい援助関係を築くための基本と、対象の状態に合わせた在宅での看護技術を学ぶ。				
学習目標	1. 在宅において療養者および家族と望ましい援助関係を築くための基本が理解できる。 2. 日常生活を中心とした在宅看護援助の基礎知識と看護技術の工夫について考えることができる。 3. 在宅で医療機器の使用・医療処置が必要な療養者の援助について考えることができる。				
講義概要	1. 訪問看護における看護者の基本姿勢 2. 訪問看護場面におけるコミュニケーション技術 3. 在宅での感染予防 4. 在宅における医療事故防止 5. 在宅での緊急時の対応 6. 在宅における基本的生活行動への援助技術(グループワーク) ①基本的生活行動への援助技術の特徴 ②生活環境 ③食事 ④排泄 ⑤清潔 ⑥睡眠 7. 在宅で医療処置を受けている場合の看護 ①褥瘡管理 ②在宅経管栄養 ③在宅中心静脈栄養法 ④膀胱留置カテーテルの管理 ⑤在宅酸素療法 ⑥在宅人工呼吸管理				
講義内容	《理学療法》 1・2回目 動作の介助方法(寝返り・起き上がり・座位保持・立ち上がり) 3回目 歩行、移動自助具 (技術演習) 《作業療法》 1回目 リハビリテーション、作業療法の定義 作業療法の対象 作業療法の評価 《言語・聴覚療法》 1回目 コミュニケーション障害がある人への対応 《在宅看護》 1回目 訪問看護における看護者の基本的姿勢とその実際 2回目 在宅における医療事故対策と感染症対策 3回目 療養者の状態に合わせた基本的生活行動への援助技術 4回目 生活環境への調整:食事、排泄、清潔の援助① グループワーク 5回目 生活環境への調整:食事、排泄、清潔の援助② グループワーク 6回目 グループワーク発表会 7回目 療養者が医療処置を受けている場合の看護:創や褥瘡の処置 8回目 療養者が医療処置を受けている場合の看護 :経管栄養、中心静脈栄養の管理、尿道カテーテルの管理と交換 9回目 療養者が医療処置を受けている場合の看護 :在宅酸素療法、在宅人工呼吸管理 10回目 試験				

統合分野

科目名	在宅援助論Ⅲ Home Nursing Ⅲ		①事例演習:高齢者 ②事例演習:終末期	講師名・実務経験	①古畑 聡子・専任教員 ②森 珠美・専任教員
講義時期	①3年前期	講義回数	15回	単位・時間数	①1単位(30)の内(15)
	②3年後期	講義方法	講義・演習		②1単位(30)の内(15)
試験予定	①3年次9月 ②3年次11月				
評価方法	①②各レポート、課題学習提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価する。 ①(50%)、②(50%)の合計(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論(医学書院)、看護診断ハンドブック(医学書院)				
学習のねらい	在宅看護の看護展開の特徴を踏まえ、在宅での代表的事例を用いて演習を行い、在宅における看護の実際について考える力を養う。				
学習目標	<p>《高齢者》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者世帯で介護危機状況にある療養者の問題点を考えることができる。 2. 療養者および家族が在宅療養を継続できるよう、看護師の役割と社会資源の活用が理解できる。 <p>《終末期》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における終末期看護のあり方について考えることができる。 2. 在宅終末期の療養者を支える家族と医療福祉スタッフの役割と問題点、社会資源の活用が理解できる。 				
講義概要	<p>小グループで紙面上の患者を基に看護過程を展開する。</p> <p>《高齢者》</p> <p>高齢者世帯で慢性疾患を抱えている療養者が介護危機状況にある事例を通し、介護保険をはじめとして、社会資源の活用の実際をグループで考える。</p> <p>《終末期》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期の療養者への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 終末期とは 2) 在宅終末期看護の条件 3) 在宅終末期看護の展開 4) 在宅での看取りの技術 5) 疼痛管理 6) 在宅終末期の看護師に求められる資質 7) 事例展開(グループワーク) 				
講義内容	<p>《高齢者》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 高齢者・在宅療養者の理解 在宅酸素療法について 2回目 事例を用いた機能別 11パターンのアセスメント 3回目 事例を用いた機能別 11パターンのアセスメント 4回目 アセスメント発表会、討議 5回目 看護計画、サービス計画について 6回目 看護計画、サービス計画について 7回目 看護計画発表会、討議 <p>《終末期》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 終末期看護 2回目 在宅における終末期看護 3回目 事例:アセスメント、看護診断の立案① 4回目 事例:アセスメント、看護診断の立案② 5回目 事例:アセスメント、看護診断の立案③ 6回目 グループ発表、全体討議① 7回目 グループ発表、全体討議② 8回目 在宅終末期における看護師の役割 				

統合分野 《看護の統合と実践》

社会が求める看護を実践するために、今までの学習を基礎として、医療安全に対する認識を高め、倫理的判断能力、自己研鑽能力を高めることができる。看護技術を統合し、実践できる力を養う。

科目名	統合看護 I (看護管理) Integrated Nursing I		講師名・実務経験	野月 千春・看護師
講義時期	3年後期	講義回数	8回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	3年次11月			
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする			
参考書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 第10版(医学書院)			
講義のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師がよい看護を提供できるよう、円滑な業務遂行のための看護職員や設備、環境の管理のあり方について学ぶ。 2. 看護職としてどのように社会と関わっていくのか考えを深める。 			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院組織における看護部門の位置付け、役割、機能を学び、看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける。 2. 他職種と協働して医療チームを組み、患者を支える大切さを理解する。 3. 組織の仕組みを知り、質の高いケアを実践するための柔軟性のあるメンバーシップ、リーダーシップを理解する。 			
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の発展とその実際 2. 看護部門の組織と運営 3. 看護管理部門の役割と管理の実際 4. 各看護単位の看護管理業務 5. スタッフナースの管理的役割 6. 医療事故・看護事故への対処 			
講義内容	1回目	看護とは 看護管理とは、看護覚書き、看護管理、家庭について、小管理について		
	2回目	日本の人口構造 社会的費用、封建医療のパラダイムシフト 病院の基本的成り立ち		
	3回目	看護サービス提供体制の特徴 看護業務基準 診療情報の伝達と共有 看護記録とは		
	4回目	看護管理に伴う基本的役割 人的資源管理 入院基本料と看護配置		
	5回目	新人看護職員臨床研修制度について 法律の概要 新宿MCの看護師教育の実際		
	6回目	各看護単位での看護管理 病棟管理について 勤務表作成演習		
	7回目	医療保険制度 診療報酬体系と看護 職務上の危機防止 ストレスマネジメント		
	8回目	試験		

統合分野

科目名	統合看護Ⅱ (医療安全) Integrated Nursing II		講師名・実務経験	①米倉一郎・医師 ①松田久子・看護師(医療安全管理者) ②山口亜由美・認定看護師	
講義時期	3年通年	講義回数	15回	単位・時間数	①1単位(30)の内の(10+14)
		講義方法	講義・演習		②1単位(30)の内の(6)
試験予定	3年次11月				
評価方法	筆記試験①(70%)、②(30%)の合計(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 統合分野 医療安全(医学書院)				
講義のねらい	看護職として医療安全に対する認識を高めることをねらいとする。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に関する基礎的知識が理解できる。 2. 事例検討を通し、事故が起きる要因と事故防止を考えることができる。 3. 自己の傾向(思考・判断・行動)を知り、対策を考えることができる。 4. 組織として、感染管理を含む安全管理にどのように取り組んだらよいのか考えることができる。 				
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全を学ぶ意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全を学ぶことの重要性 2) 看護の中での医療事故 2. 日本の現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国の取り組み 2) 組織的取り組み 3) 医療訴訟の現状 3. 事故防止の考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療事故の理解 2) ヒューマンエラー 3) 看護における事故の構造とその防止 4) リスクセンスとKYT(危険予知訓練) 4. 事故防止の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 診療の補助業務に伴う事故防止 2) 療養中の世話に伴う事故防止 3) 業務領域を超えて共通する間違いとその対策 4) 医療事故とコミュニケーション 5) 事故後の対応 5. 事故分析の演習 RCA(根本原因分析)を用いてのグループワーク 6. 医療関連感染対策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療関連感染対策とは何か 2) 標準予防策と感染経路別予防策 3) 感染予防対策の実際(手指衛生、防護用具) 4) 院内感染予防対策委員会の役割 				
講義内容	<p>《医療安全／事故・安全管理組織》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 事故防止の考え方を学ぶ 2回目 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 3回目 医療安全とコミュニケーション① 4回目 組織的な安全管理体制 5回目 医療安全対策の国内外の潮流 6回目 令和元年度 医療安全統計 医療安全文化の醸成 インシデント・アクシデントレポート 7回目 患者間違い、医療安全とコミュニケーション② 8回目 診療の補助の事故防止 患者に投与する業務における事故防止(注射) 9回目 診療の補助の事故防止 患者に投与する業務における事故防止(内服・輸血) 10回目 療養中の世話の自己(転倒・転落) 11回目 療養中の世話の自己(転倒・転落) インシデントKYT <p>《医療安全／院内感染予防管理》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 感染管理の実際① 1. 感染を取り巻く状況の対策 2. 当院の組織 3. 管理活動紹介 2回目 感染管理の実際② 洗浄・消毒・滅菌 3回目 感染管理の実際③ 針刺・切創・皮膚・粘膜汚染防止 4回目 試験(事故・安全管理組織・院内感染予防管理) 				

統合分野

科目名	看護技術統合演習 Practice of nursing Arts		講師名・実務経験	専任教員全員・専任教員																				
講義時期	3年後期	講義回数	15回	単位・時間数	1単位(30)																			
		講義方法	講義・演習																					
試験予定	3年次11月																							
評価方法	看護実践(40%)、筆記試験(30%)、疾患理解(20%)、参加態度(10%)の合計(100%)。60点以上を合格とする。																							
参考書	新体系看護学全書 別巻14 看護管理/看護研究/看護制度 (メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 統合分野 医療安全(医学書院)																							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の病態生理、治療、処置、看護を学習し、看護技術の方法の根拠、留意点を明確にできる。 2. 患者の状態から優先順位を判断し行動計画(看護計画)が立案できる。 3. 自分のおかれた状況と患者の状態を見極め、行動計画を変更し、安全に実施できる。 4. メンバーと連携をとり、必要に応じて協力を求めることができる。 5. 実施したこと、途中経過等を適宜リーダーに報告できる。 6. 自分自身の行動を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。 7. 患者体験を通し、入院環境における患者の心理と配慮について考えることができる。 																							
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 事例の病態生理、治療・処置、看護の学習、看護技術の根拠・留意点の明確化 3. 学習の発表会 4. 複数患者を受け持ったときのスケジュールの立て方と多重課題への対応のポイント(講義) 5. 行動計画立案 6. 実技演習 7. まとめ <p>*2、3、5、6、7はグループワークで進めます。</p>																							
講義内容	<table border="0"> <tr> <td>1回目</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>病態生理、治療・処置、看護の学習①</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>病態生理、治療・処置、看護の学習②</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>各患者の病態生理、治療、看護の発表</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>マルチタスクの優先度判断や公平性について</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>筆記試験</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>看護計画、行動計画の立案</td> </tr> <tr> <td>8・9回目</td> <td>技術演習、会場設営</td> </tr> <tr> <td>10・11・12回目</td> <td>実技演習①、ふりかえり①</td> </tr> <tr> <td>13・14・15回目</td> <td>実技演習②、ふりかえり②</td> </tr> </table>				1回目	オリエンテーション	2回目	病態生理、治療・処置、看護の学習①	3回目	病態生理、治療・処置、看護の学習②	4回目	各患者の病態生理、治療、看護の発表	5回目	マルチタスクの優先度判断や公平性について	6回目	筆記試験	7回目	看護計画、行動計画の立案	8・9回目	技術演習、会場設営	10・11・12回目	実技演習①、ふりかえり①	13・14・15回目	実技演習②、ふりかえり②
1回目	オリエンテーション																							
2回目	病態生理、治療・処置、看護の学習①																							
3回目	病態生理、治療・処置、看護の学習②																							
4回目	各患者の病態生理、治療、看護の発表																							
5回目	マルチタスクの優先度判断や公平性について																							
6回目	筆記試験																							
7回目	看護計画、行動計画の立案																							
8・9回目	技術演習、会場設営																							
10・11・12回目	実技演習①、ふりかえり①																							
13・14・15回目	実技演習②、ふりかえり②																							

統合分野

科目名	在宅看護論実習		講師名・実務経験	森 美和・専任教員
実習時期	3年通年	実習場所	医療施設	単位・時間数
		講義方法	実習	
実習方法	訪問看護ステーションで看護師に同行し、在宅で療養をする対象と家族への看護を学ぶ			
	老人福祉施設に行き、そこで生活をしている人々との関わりを通し、対象の理解、看護者の役割を学ぶ			
	地域包括支援センター、地域連携総合相談センターの活動を見学し、連携や看護のあり方を考える。			
評価方法	実施内容、実習記録、カンファレンス等の参加度などを総合的に評価する			
実習目的	包括的看護の視点で、あらゆる場での対象と看護活動を理解し、急速に変化する保健医療福祉システムや社会のニーズに対応できる能力を養う。			
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. あらゆる場で生活している対象及び家族を理解し、対象の健康課題を理解する。 2. あらゆる場で生活している対象及び家族の生活の諸要素を知る。 3. 実際の体験を通して、対象やその家族の生活の場に応じた援助技術・指導技術を理解する。 4. 社会資源の活用方法と関連機関との連携のあり方を学ぶ。 5. 社会的ニーズの変化を捉え看護のあり方について展望する姿勢・態度を身につける。 			
実習内容	<p>I. 訪問看護ステーション実習</p> <p>在宅で療養している人々や介護する家族の状況を理解し、療養者やその家族の生活に応じた看護の実際を体験する。また、社会資源の活用や関連機関との連携の実際を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護活動 ・在宅での看護活動における看護師の役割 ・療養者の生活環境や生活習慣および介護する家族の状況に適した日常生活援助技術の工夫 ・療養者および家族のセルフケア能力を高めるための保健指導 ・療養者が活用できる社会資源の種類および活用状況 ・関係医療機関との連携の実際、在宅看護に必要な保健医療チームについて ・療養者が必要としている日常生活援助 <p>II. 老人福祉施設実習</p> <p>社会福祉施設の機能や役割、施設を利用している対象の生活及び健康課題に対するニーズを理解し、それぞれの施設での看護の活動と役割を理解する。また、施設内での療養を支援する社会資源や関連機関との連携の実際を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉施設の概要 ・施設内で生活している人と生活の実際 ・施設内での看護師および各職種の役割 ・施設内での療養を支援する社会資源と関連機関や他職種との連携 <p>III. 地域包括支援センター実習</p> <p>地域で暮らす高齢者の生活及び健康に対するニーズを理解し、介護、福祉、健康、医療など、さまざまな面から総合的に支えるための地域包括支援センターが、どのように活動しているのか実際を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの機能と役割 ・地域における地域包括支援センターの実際の活動の実際 ・包括支援事業(介護予防事業に関するケアマネジメント、総合相談支援事業、権利擁護事業、包括的・継続的マネジメント事業) ・介護予防支援業務 <p>IV. 地域連携・総合相談センター実習</p> <p>地域で暮らす療養者の入院支援および退院に向けた患者・家族への退院支援における地域連携・総合相談センターの機能と役割を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携・総合相談センターの機能と役割 ・入院調整における他部署との連携 ・退院調整における医師・看護師との連携 			

実
関

・退院調整における関連機関との調整内容と地域連携・総合相談センターの役割

※実習方法: 訪問看護ステーション、老人福祉施設、地域包括支援センター、地域連携・総合相談センター等

統合分野

科目名	統合看護実習			講師名・実務経験 単位・時間数	専任教員全員 2単位(90)
	実習時期 3年後期	実習場所	病棟		
		講義方法	実習		
評価方法	実施内容、記録物、カンファレンスなどへの参加度を総合的に評価する				
実習のねらい	組織における看護師の役割を理解し、臨地実践に即した看護を学ぶ				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟における看護管理を理解できる 2. 保健医療福祉チームでの看護師の役割が理解できる 3. チームナーシングの中でのリーダーシップ、メンバーシップから看護体制が理解できる 4. 看護の優先度を考慮して複数の対象への看護を実施することができる 5. 夜間実習の経験を通して、看護が24時間継続していることが理解できる 6. 対象に合わせた看護技術を計画し、実施できる 				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の優先度を考慮した援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) それぞれの対象の問題点に合わせた必要な看護援助 2) 緊急性・治療・検査の予定・生活パターンなどを考慮した1日の行動計画の立案 3) 複数の対象に対しての看護の優先度 4) 適時、緊急性・重要性を判断した報告 5) 簡潔明瞭な引継ぎ 6) 患者に不公平感を感じさせない配慮 2. 夜間実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 夜間の看護体制と看護師の役割 2) 昼と夜の患者の訴えや心理状態の違い 3) 円滑な業務遂行のための取り組み(翌日の検査・処置の準備、薬剤管理・準備等) 4) 夜間における事故の危険性 5) 夜間における対象の状況の観察方法 6) イブニングケア、モーニングケア 7) 睡眠への援助 3. 看護管理実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟管理 <ol style="list-style-type: none"> ① 病棟の業務および人の管理、看護教育、他部門との連携の実際 ② 組織の一員としての看護師の役割 2) チームナーシング <ol style="list-style-type: none"> ① リーダー、メンバーそれぞれの業務・役割 4. 救急車同乗実習 あらゆる場で生活している対象が救急車を要請する状況を理解し、救急隊員の活動の実際を体験する。 また、医療機関との連携の実際を見学する。 <ul style="list-style-type: none"> ・救急活動の実際 ・緊急時の生命維持の管理 (気道確保、人工呼吸、心マッサージ、自動体外式除細動器 AED:Automated External Defibrillator) <ul style="list-style-type: none"> ・救急車の構造、設備 ・救急隊員と医療機関の連携 				